

伊豆諸島鳥島海域産コシダカオキナエビスガイ

蟹江康光*・倉持卓司**・服部陸男***

Mikadotrochus salmianus

(Pleurotomariidae: Mollusca) from west off waters of Torishima, Izu Islands.

KANIE Yasumitsu*, KURAMOCHI Takashi** and HATTORI Mutsuo***

オキナエビスガイ属 *Mikadotrochus* には、オキナエビスガイ *M. beyrichii* (HILGENDORF), ベニオキナエビスガイ *M. hirasei* (PILSBRY), コシダカエビスガイ *M. salmianus* (ROLLE) の3種が日本周辺海域より報告されている。これらの分布域は、オキナエビスガイが房総半島沖から熊野灘まで、ベニオキナエビスガイが房総半島沖・熊野灘～東シナ海まで、コシダカオキナエビスガイは紀伊水道から東シナ海に分布する(倉持ほか, 1994; 蟹江ほか, 1995)とされている。本報告では、コシダカオキナエビスガイの新産地として鳥島沖より採集された試料について若干の知見を示す。

本報告にあたり、試料を快くご提供くださった「第一アデコ」号の清水俊宏氏に感謝する。

試料

コシダカオキナエビスガイ *Mikadotrochus salmianus* (ROLLE)

標本番号: YCM-H 8745 ~ 8747, ADECO 52.

産地: 東京都伊豆諸島鳥島北西約 200 m の海域。

水深 200 ~ 300 m の海山斜面および海山頂面。

採集日: 1997 年 5 月

結果

試料の計測結果を、Table 1 に示す。採取試料 4 個体中の最大個体(YCM-H 8746)は、殻径 101.5 mm, 殻高 113.0 mm。最小個体(ADECO 52)は、殻径 82.5 mm, 殻高 89.2 mm であり、螺層は、全個体巻が 9 巻までである。スリットの長さは、最大個体で 52 mm。最小個体で 42 mm で、殻の大きさに比例している。4 個体の殻高(H)/殻径(D)の比率は、1.05 ~ 1.11 とほぼ一定で、殻高の高い形態(Figs. 1, 2)を示している。

鳥島沖個体群と、奄美大島沖および土佐沖から採集された各個体群の殻高および殻径の計測結果から求められる平均相対成長式を Fig. 1 に示す。奄美大島産は $H=0.89D^{1.04}$, 土佐産は $H=1.01D^{1.01}$ となり、この2群の平均成長式は近似するが、4 個体だけの鳥島産個体群は $H=0.66D^{1.10}$ となり、この2群に比べ、殻高がいくらか低い。

本試料は、鳥島北西約 200 m の水深 200 ~ 300 m, 水温 16 °C の海山周辺のヤギ類が比較的多い岩礁帯(清水俊宏氏私信)に生息する。このような生息環境は、蟹江ほか(1995)や倉持ほか(1995)により報告された、相模湾や房総半島沖のオキナエビスガイの生息環境と似ている。一方、鳥島西の水深 150 m の岩礁底からは、リュウグウオキナエビスガイ *Entemnotrochus rumphii* (SHEPMAN) が採集されている(蟹江, 1986)。本種は、鳥島を含む土佐湾沖から東シナ海に分布する。

日本周辺海域に生息するオキナエビスガイ属3種の生息環境は、オキナエビスガイとコシダカオキナエビスガイが岩礁帯を中心に生息するのに対し、ベニオキナエビスガイは岩礁帯から砂底帯までの広い範囲の底質に生息している(蟹江ほか, 1995)。オキナエビスガイは房総半島沖～熊野灘と伊豆諸島北部まで、コシダカオキナエビスガイは紀伊水道～東シナ海まで生息していることが判明しているが、今回の報告によって伊豆諸島南部にも生息していることが明らかになった。

* 横須賀市自然博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka 238-0016

** 横須賀市自然博物館気付 c/o Yokosuka City Museum, Yokosuka 238-0016

*** 海洋科学技術センター Japan Marine Science and Technology Center, Natsushima, Yokosuka 237-0061

原稿受付: 1997 年 8 月 31 日 横須賀市博物館業績 511 号

キーワード: コシダカオキナエビスガイ, オキナエビスガイ科, 軟体動物, 鳥島, 伊豆諸島 Key words: *Mikadotrochus salmianus*, Pleurotomariidae, Mollusca, Torishima, Izu Islands

したがって、オキナエビスガイとコシダカオキナエビスガイ・リュウグウオキナエビスガイはそれぞれの異なる分布域をもつ生物地理的すみ分けをしていると考えられる。

引用文献

- 蟹江康光・服部陸男・倉持卓司・池田 等 1995. オキナエビスガイ科の生態と殻の系統分類. JAMSTEC 深海研究, (11): 279-284.
- 蟹江康光 1986. 伊豆諸島鳥島西方海域のリュウグウオキナエビスガイ. 横須賀市博研報(自然), (34): 67-70.
- 倉持卓司・蟹江康光・小泉 斉 1994. オキナエビスガイ科 Pleurotomariidae の分類についての再検討. みたまき, 相模貝類同好会会報, (29): 3-9.
- 倉持卓司・蟹江康光・服部陸男・池田 等 1995. 相模湾および房総半島沖におけるオキナエビスガイ科の分布と生息環境. 第12回しんかいシンポジウム 予稿集: 107-109.

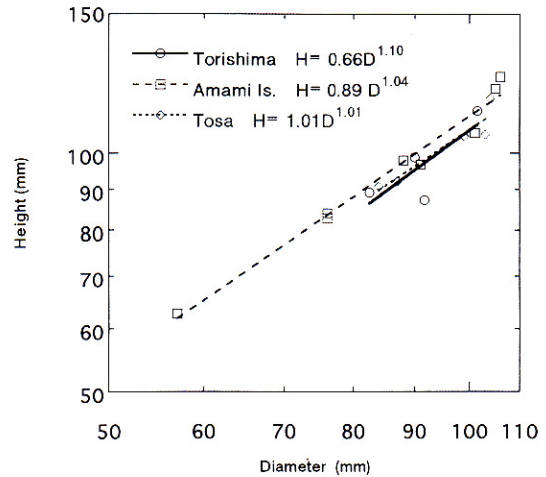


Fig.1 Ratio height against diameter of *Mikadotrochus salmianus*.

Table 1. Shell morphology of *Mikadotrochus salmianus* from west off Torishima.

Sample No.	Vol	D(mm)	H(mm)	H/D(%)	Lh(mm)	Sl(mm)	Ws(%)
YCM-H 8745	9	90.0	98.8	1.10	40.4	47	4.3
ADECO 52	9	82.5	89.2	1.08	42.6	42	4.9
YCM-H 8746	9	101.5	113.0	1.11	52.4	52	3.5
YCM-H 8747	9	87.1	91.3	1.05	41.7	42	5.0

Vol : Shell volution, D: diameter, H: height, Lh: last whorl height, Ws: width of selenizone, Sl: slit length.

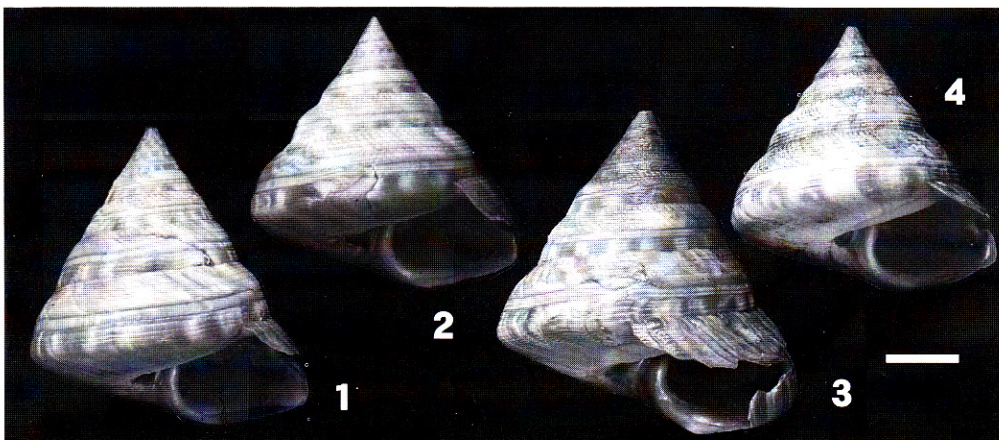


Fig.2 *Mikadotrochus salmianus* from west off Torishima.

1. YCM-H 8745, 2. ADECO 52, 3. YCM-H 8746, 4. YCM-H 8747. Scale bar 2 cm.